



## Chapter 2

# データベースを作る (1)

Chapter 2 と Chapter 3 ではデータベースの作成手順の流れに沿ってご説明します。

このChapter 2 では、データベース作成の全体の流れをご説明したのち、まずはフォルダーとデータベースの作成手順をご案内します。

データベース作成の第一歩から、データベース作成の基本的な手順、既存のデータをそのままUnitBaseに取り込んでデータベース化する方法、「フィールド」と呼ぶ様々な入力フォームの使い道などの解説を通して、業務システム構築を進めていくことができます。

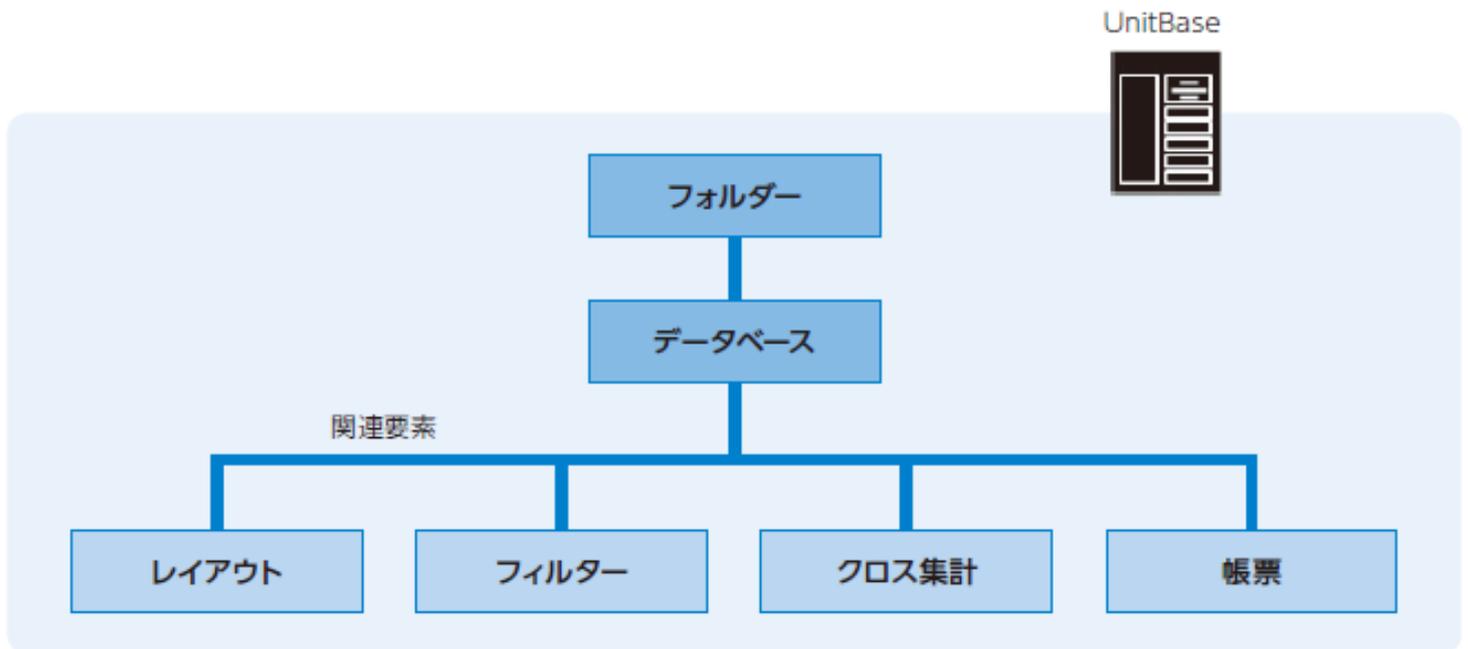
### Chapter 2 : データベースを作る (1)

- ◆ UnitBaseの構成要素
- ◆ UnitBaseの画面構成
- ◆ データベース作成の流れ
- ◆ フォルダーを作成する
  - ・ フォルダー作成
  - ・ サブフォルダー作成
  - ・ フォルダーを任意の順番で並べ替える
- ◆ データベースを作成する
  - ・ 作成方法 1 : 白紙から作成する
  - ・ 作成方法 2 : 表計算ファイルから作成する
  - ・ 作成方法 3 : テンプレートから作成する
  - ・ 作成方法 4 : RDBから作成する
  - ・ 作成方法 5 : 既存のデータベースを利用して作成する
  - ・ テーマカラーを設定する
  - ・ 利用できるフィールド

# データベース作成の基本

## UnitBaseの構成要素①

UnitBaseのデータベースを構成する要素は、「フォルダー」「データベース」「関連要素」の3つに大きく分かります。  
これらの要素は階層構造となっており、データベース作成の際はこの構成に従い上位の階層にある要素から作成を進めます。



### □ フォルダ

データベースを格納する領域です。  
作業や業務の内容ごと、データを扱う部門ごとなど、分かりやすい単位でデータベースを分類・管理することができます。

### □ データベース

データを登録・蓄積していく、UnitBaseの最もメインとなる要素です。

### □ 関連要素

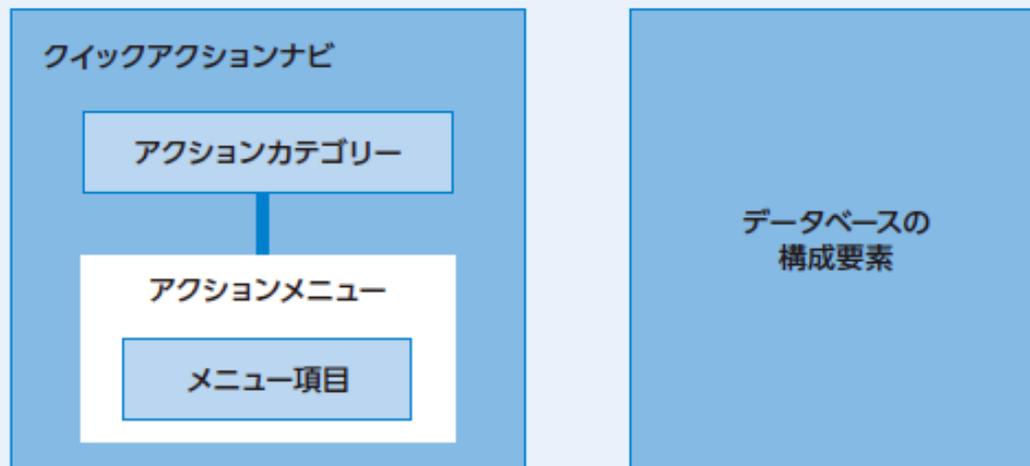
データベースに登録されているデータの活用に役立つ機能です。  
詳細はのちほど個別にご紹介します。

# データベース作成の基本

## UnitBaseの構成要素②

「クイックアクションナビ」と呼ぶ、UnitBaseの各種機能にダイレクトにアクセス可能な、お客様独自のメニューを作成できます。  
クイックアクションナビは「アクションカテゴリー」「アクションメニュー」「メニュー項目」の3つの要素で構成されています。  
この3つの要素はデータベースとは独立した階層構造をとった構成になっています。

UnitBase



### □ アクションカテゴリー

業務内容や作業内容に応じてメニュー項目を分類するカテゴリーです。

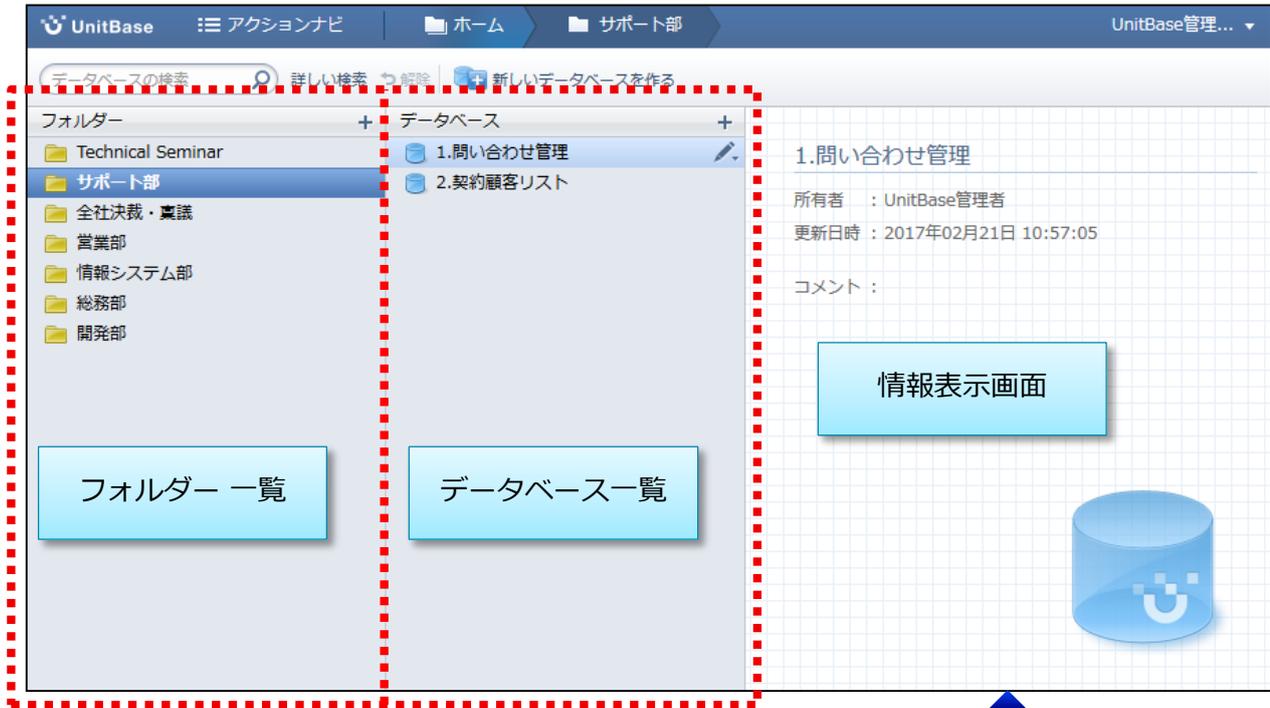
### □ アクションメニュー・メニュー項目

担当者ごとや業務グループごとなどに分けてアクションメニューを配置し、各アクションメニューの中にUnitBaseの機能にアクセスするメニュー項目を配置します。

# データベース作成の基本

## UnitBaseの画面構成

ホーム画面



フォルダー一覧

データベース一覧

情報表示画面



クイックアクションナビ画面



アクションメニュー一覧

アクションカテゴリ一覧

表示は相互に切り替え可能

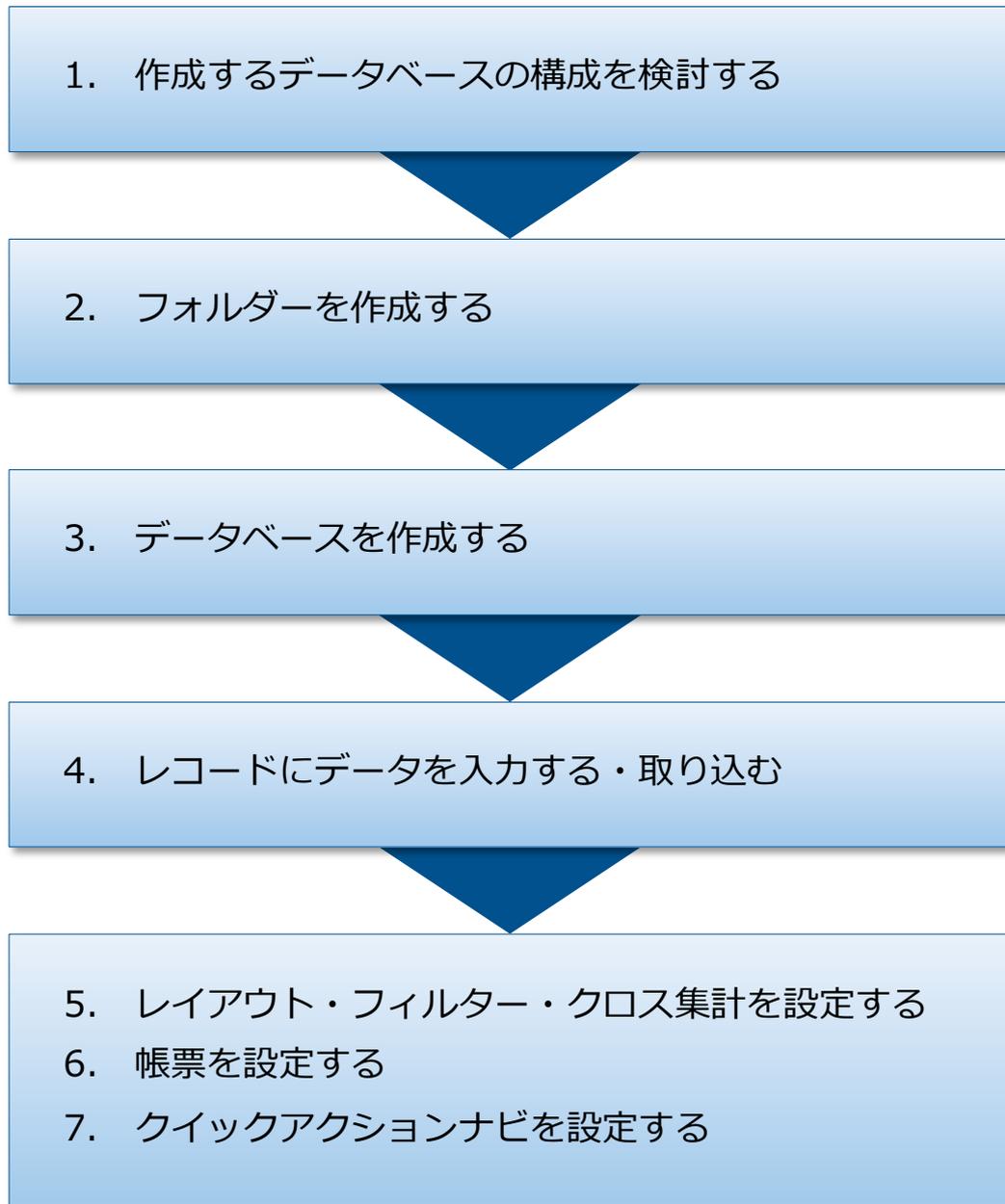
メニュー項目

メニュー項目

# データベース作成の基本

## データベース作成の流れ

UnitBaseでデータベースを作成し、データを入力・編集できるようにするまでの作業は、大まかに以下の流れになります。



※作成したフォルダ・データベース・関連要素・クイックアクションナビを複数のユーザーで利用できるようにするには、それぞれ「公開」の作業が必要です。公開については次の章で説明します。

# データベース作成の基本

## 1. 作成するデータベースの構成を検討する

データベースを作成する前に、作成するデータベースの構成を検討します。  
主に次の内容を検討し、情報を整理しておきます。

- ・データベースで管理する目的
- ・データベースを作成するフォルダー
- ・データベースの利用者(※)
- ・管理する項目
  - －項目ごとのフィールドの種類（データ型）
  - －フィールドの初期値や選択肢として用意する内容
  - －入力を必須にするか、重複した値を禁止するか など

※データベースを複数人で共用する場合は、どのグループ・ユーザーに、どこまでの操作を許可するかなど、アクセス権についても検討します。

既存のデータがある場合（Excelファイル、基幹システムなど）には、表計算ソフトを使用してデータを準備しておく、データベースへスムーズにデータを取り込むことができます。

業務に必要なデータ入力・一覧・集計などの操作をメニューとして用意する場合は、クイックアクションナビの構成についても検討します。

- ・アクションメニューを作成するアクションカテゴリー
- ・メニュー項目を設定するアクションメニュー
- ・アクションカテゴリーやアクションメニューの利用者(※)

※アクションカテゴリーとアクションメニューにだけアクセス権を設定しても、メニュー項目に設定されているデータベースや関連要素にアクセス権がないと、メニュー項目の設定内容は実行できません。データベースや関連要素のアクセス権についてもあわせて検討します。

## 2. フォルダーを作成する

作成するデータベースを格納するフォルダーを作成します。

以下のような観点でフォルダーを分け、データベースを管理します。

- ・作業内容、業務内容
- ・データを扱う部門

フォルダーは、管理者かフォルダー作成権限があるユーザーが作成できます。  
1つのフォルダーに対して複数個のデータベースを作成できます。

フォルダーの階層管理が可能です。トップのフォルダーを第1階層として6階層まで作成できます。  
なお、アクセス権の設定はルート階層つまり第1階層のみに設定でき、サブフォルダーのアクセス権はルート階層に従います。

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

フォルダーにデータベースを作成します。

データベースを作成する方法は4種類あります。

- ・方法1：白紙から作成する  
データベースの項目にするフィールドを、ドラッグアンドドロップで編集領域に自由に配置して作成します。
- ・方法2：表計算ファイルから作成する  
表計算ファイルのデータをデータベースの項目として取り込んで作成します。
- ・方法3：テンプレートから作成する  
データベーステンプレートファイルを利用して新しいデータベースを作成します。
- ・方法4：既存のデータベースを利用して作成する  
作成済みのデータベースを複製して、別のデータベースを作成します。

## 4. レコードにデータを入力する・取り込む

データベースが作成できたら、フィールドの項目にデータを入力し、レコードを作成します。

データを入力する方法は2種類あります。

- ・方法1：直接入力する  
入力画面からフォームに直接データを入力します。
- ・方法2：表計算ファイルから取り込む  
表計算ファイルに記述されたデータをフィールドに割り付けて取り込みます。  
表計算ファイルの取り込みにはさらに、画面上の操作から取り込む方法と、コマンドラインツールを実行して取り込む方法があります。
- ・方法3：帳票から取り込む  
帳票として整形されたデータをレコードとして取り込みます。  
あらかじめ帳票取り込みテンプレートの設定をしておく必要があります。
- ・方法4：メールから取り込む  
メールの内容や、添付された帳票をレコードとして取り込みます。  
あらかじめメール受信設定・メール取込設定をしておく必要があります。

入力・更新された内容はすぐにデータベースに反映されます。

# データベース作成の基本

## 5. レイアウト・フィルター・クロス集計を設定する

### ■レイアウト

1つのデータベースに対し、フィールドの表示・非表示や配置の異なる複数の画面構成を設定することができます。

この設定を「レイアウト」と呼びます。

例えば、部門ごとに異なるレイアウトを用意し、必要なデータだけを参照できるようにフィールドの表示/非表示を切り替えることができます。

### ■フィルター

レコードの絞込条件やソート順、表示するレイアウト、ハイライト条件、ガイダンスに表示する内容を、まとめて保存しておくことができます。

これらの条件の組み合わせを「フィルター」と呼びます。

フィルターを使い分けることで、1つのデータベースを、いろいろな視点ですばやく表示できます。

### ■クロス集計

対象フィールドを組み合わせて、データベースに記録されているデータをクロス集計表に集計することができます。

この機能により、データをいろいろな角度で集計・分析することができます。

また、集計したデータをグラフ表示することもできます。

## 6. 帳票を設定する

### ■帳票

帳票出力テンプレートとして用意したExcelファイルに対してレコードの値を書き込んで、体裁の整った帳票ファイルを作成することができます。

帳票出力機能には、レコード単位で帳票を作成する「帳票作成」と、複数のレコードから帳票を作成する「レポート作成」の2種類があります。

## 7. クイックアクションナビを設定する

必要に応じてクイックアクションナビを設定します。

クイックアクションナビを設定するには、まずアクションカテゴリーを作成後、作成したカテゴリー内にアクションメニューを作成します。

アクションカテゴリーを作成する方法は2種類あります。

- ・方法1：白紙から設定する

新しいアクションカテゴリーを白紙から作成し、アクションメニュー・メニュー項目を登録します。

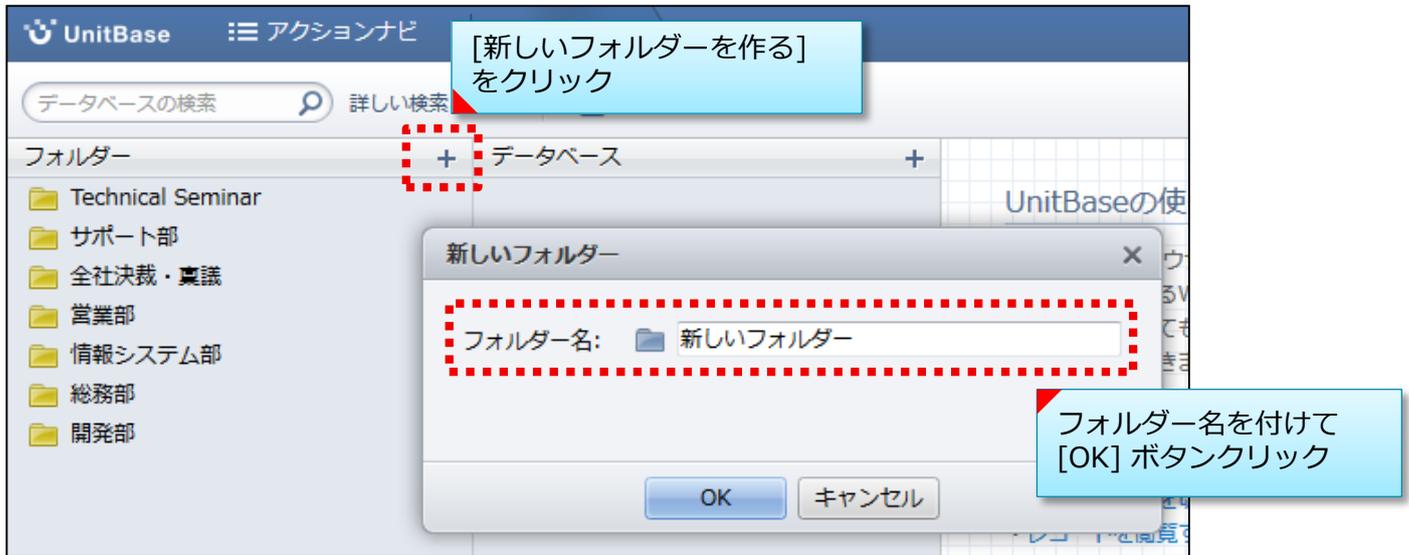
- ・方法2：テンプレートから作成する

アクションナビテンプレートファイルを利用して作成します。

# データベース作成の基本

## 2. フォルダを作成する

### □ フォルダ作成



- ✓ フォルダを作成できるのは、管理者ユーザーかフォルダ作成権限のあるユーザーだけです

### □ フォルダ削除



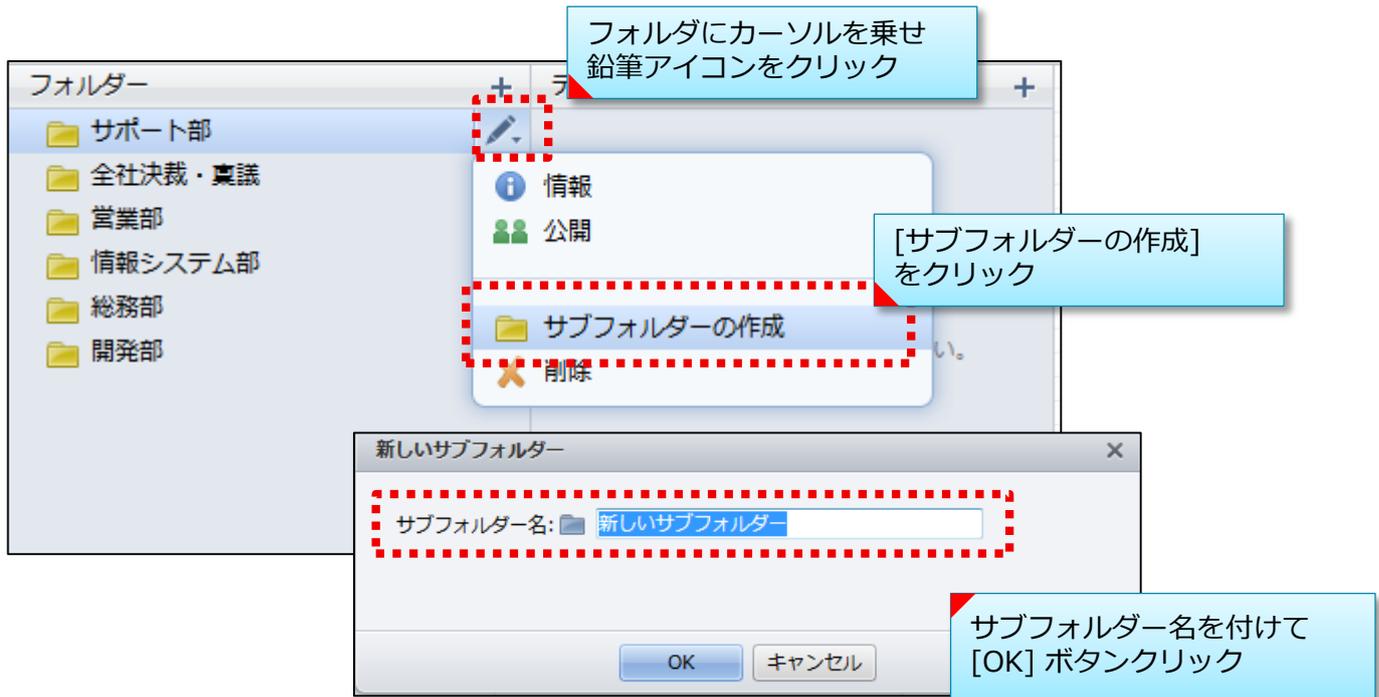
- ✓ フォルダを削除できるのは、対象フォルダの所有者と管理者です

# データベース作成の基本

## 2. フォルダを作成する

### □ サブフォルダ作成

フォルダの下の階層にサブフォルダを作成することができます。



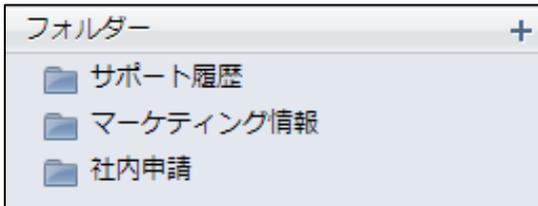
- ✓ サブフォルダを作成できるのは、管理者ユーザーかフォルダ作成権限のあるユーザーだけです。
- ✓ サブフォルダにはアクセス権設定ができません。所属するルートフォルダの権限設定に従います。

# データベース作成の基本

## 2. フォルダを作成する

### □ フォルダを任意の順番で並べ替える

作成したフォルダの一覧は、名前の文字コード順で並びます。



任意の順番で並べ替えるには、名前の先頭に「%{」と「}」で囲んだ数値や文字を設定して連番を振ります。先頭に付けた「%{XXX}」部分は一覧上には表示されません。

フォルダの名前はメニューから [情報] を開いて変更できます。



「%{01}社内申請」「%{02}マーケティング情報」「%{03}サポート履歴」とフォルダの名前を変更したとすると、一覧では次のように表示されるようになります。



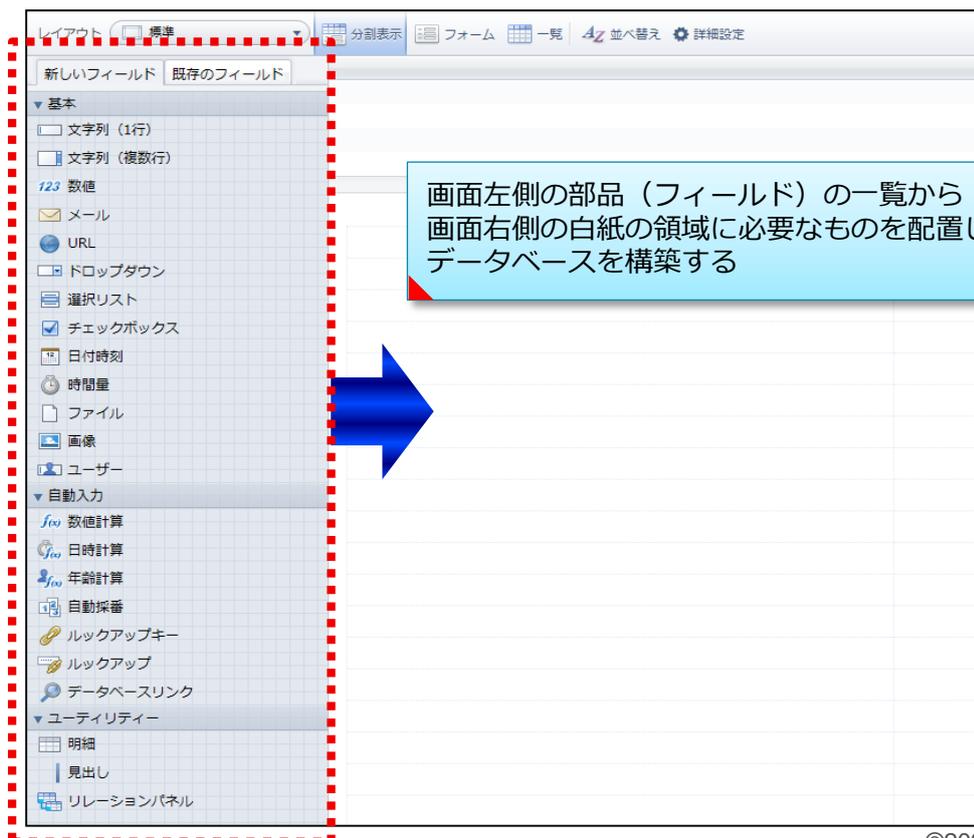
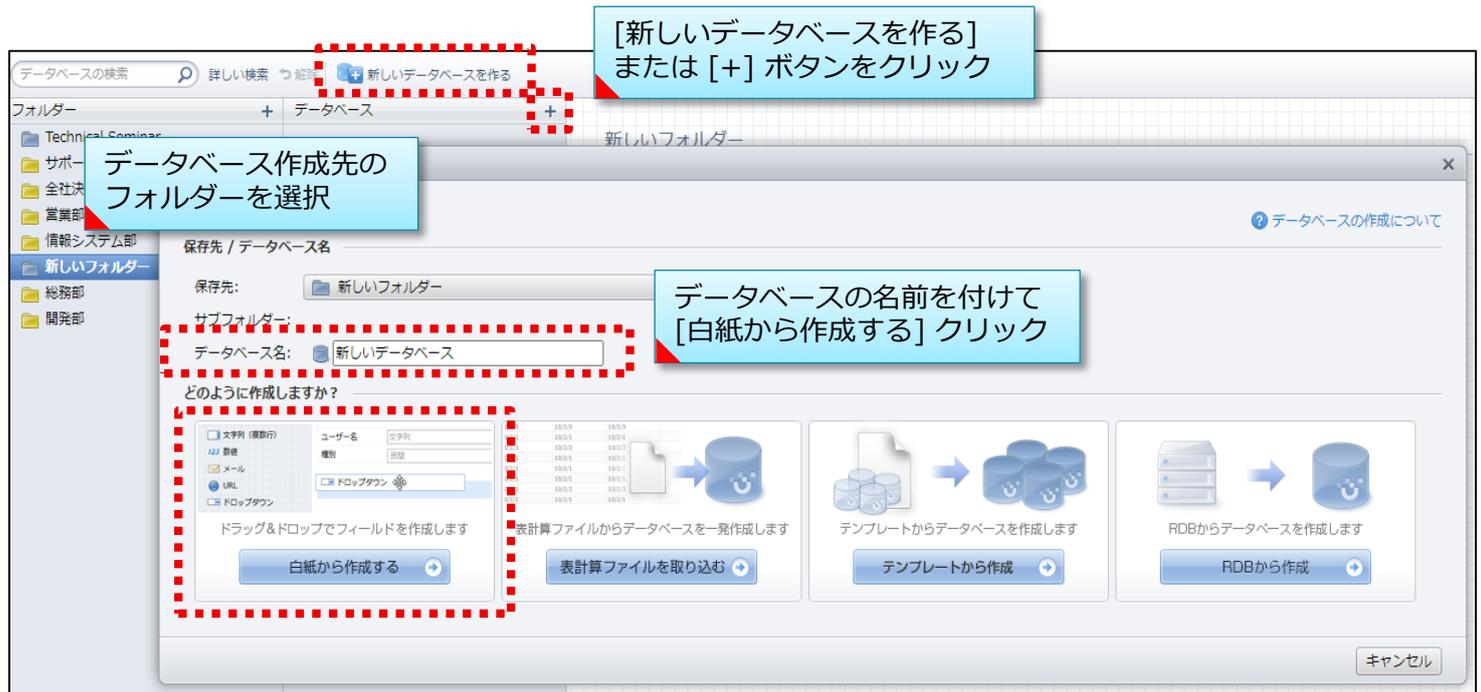
- ✓ この並べ替えテクニックは、このあとにご説明するデータベース・関連要素・アクションメニュー・アクションカテゴリーの表示順を変更する場合にも同じように使えます

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 1 : 白紙から作成する

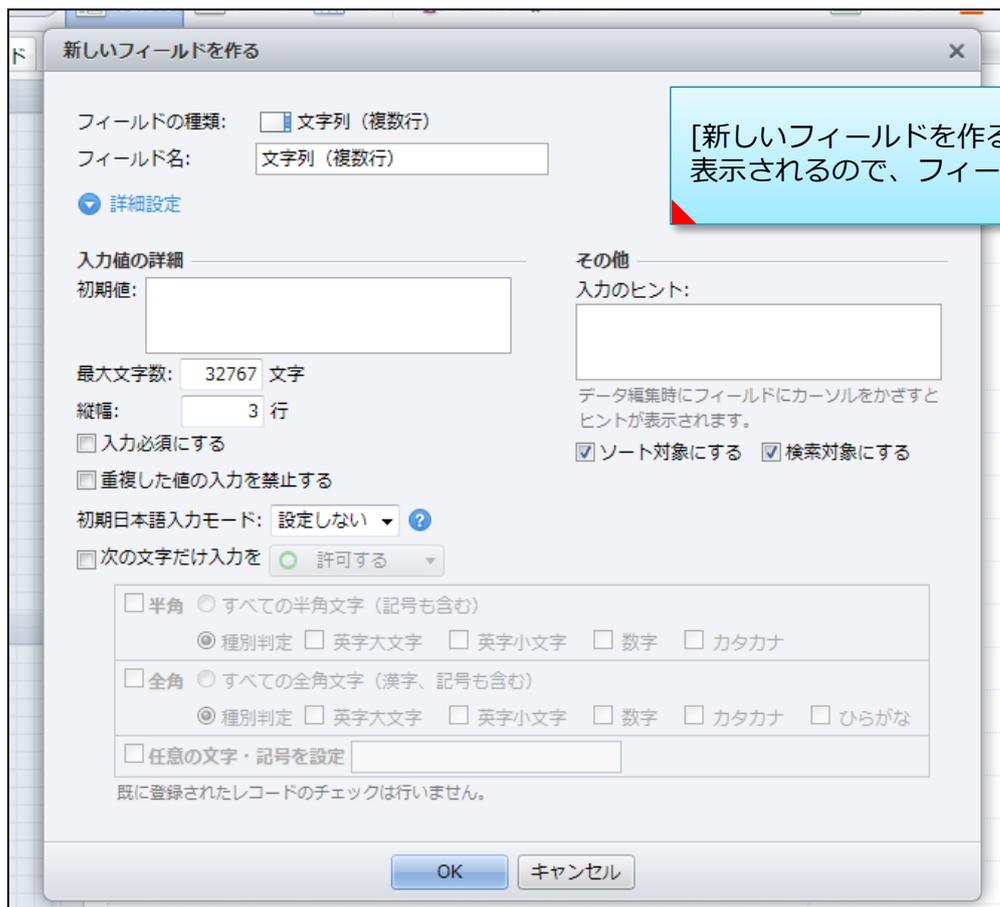
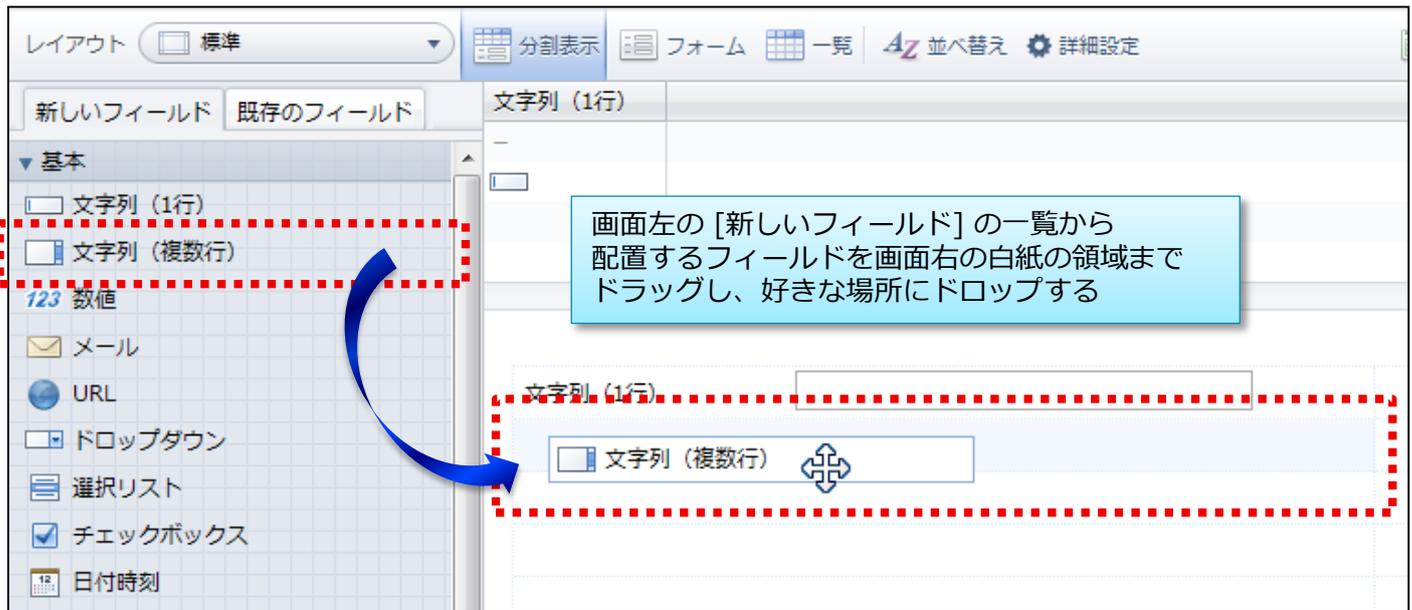
データベースの項目にするフィールドを、ドラッグアンドドロップで編集領域に自由に配置して作成します。



# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 1 : 白紙から作成する

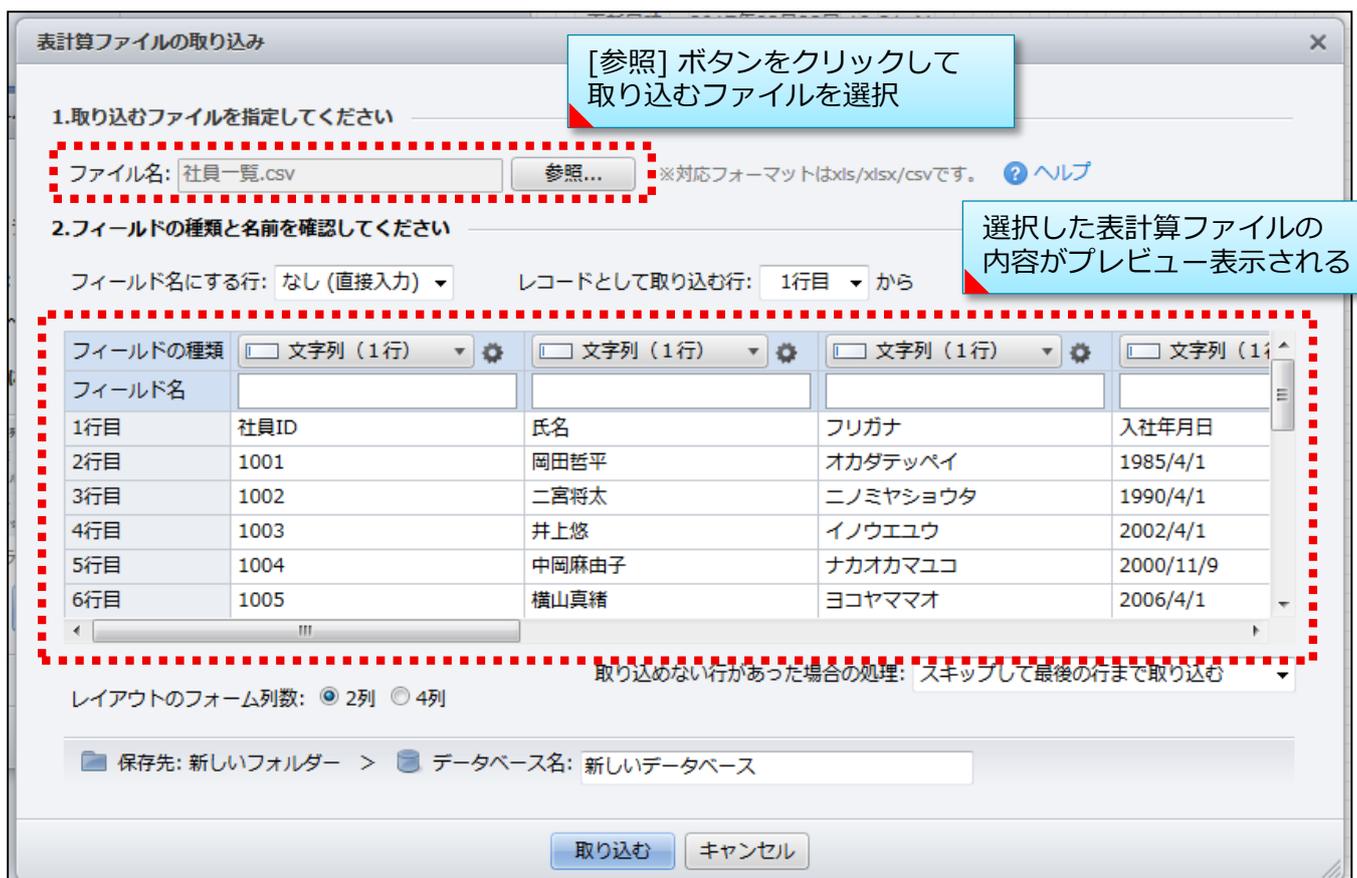


# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法2：表計算ファイルから作成する

表計算ファイルのデータをデータベースの項目として取り込んで作成します。データを取り込むときに、データベースの項目にするフィールドを指定したり、取り込むフィールドの詳細を設定したりできます。



# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 2 : 表計算ファイルから作成する

[フィールド名にする行] を指定することで表計算ファイルの任意行の値をフィールド名として自動的に設定できる

フィールド名にする行: 1行目      レコードとして取り込む行: 2行目 から

フィールドの種類	123 数値	文字列 (1行)	文字列 (1行)	文字列 (1行)
フィールド名	社員ID	氏名	フリガナ	入社年月日
1行目	社員ID		フリガナ	入社年月日
2行目	1001		オカダテッペイ	1985/4/1
3行目	1002	二宮将太	ニノミヤショウタ	1990/4/1
4行目	1003	井上悠	イノウエユウ	2002/4/1
5行目	1004	中岡麻由子	ナカオカマユコ	2000/11/9
6行目	1005	横山真緒	ヨコヤママオ	2006/4/1

各列のデータの内容に応じて [フィールドの種類] を選択

レイアウトのフォーム列数:  2列  4列

取り込めない行があった場合の処理: スキップして最後の行まで取り込む

保存先: 新しいフォルダー > データベース名: 新しいデータベース [取り込む] ボタンをクリック

取り込む      キャンセル



#### ✓ 取り込み可能なファイル形式は以下の通りです

- CSV形式 (.csv)
  - 文字コードはシフトJISのみ対応
  - 最大200MBまで
- Microsoft Excel ブック形式 / 97-2003 ブック形式 (.xlsx / .xls)
  - 取り込めるのは1枚目のシートにあるデータのみ
  - 最大20MBまで



- ✓ 取り込むファイルのデータは、UnitBaseの各フィールドに取り込める書式で記述されている必要があります
- ✓ Excel 97-2003 ブック形式 (.xls) の場合、名前範囲にコメントが含まれていると、正しく取り込めない場合があります
- ✓ Excel形式のファイルの場合、使用されている関数によってはUnitBaseにデータを取り込めない場合があります。その場合は一旦CSV形式で保存したファイルで取り込めるか確認します。

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 2 : 表計算ファイルから作成する

表計算ファイルから取り込むことができるフィールドは、基本グループのうち、次の種類のフィールドです。

また、表計算ファイルでは、次の書式で記述されている必要があります。

UnitBaseのフィールドの種類	ファイル内のデータの書式	
文字列 (1行)	Excel形式	セル内の1行の文字列
	CSV形式	1行の文字列
文字列 (複数行)	Excel形式	セル内改行を利用した、セル内の複数行の文字列
	CSV形式	1行ごとに改行を挟み、全体を半角のダブルクォーテーション ( " ) で囲んだ文字列 [例] "1行目<改行>2行目<改行>3行目"
数値	Excel形式 CSV形式 共通	半角の数字 ※半角のマイナス ( - ) や、半角の小数点 ( . ) を使って記述された負数や小数も取り込むことができます。 ※整数部分が3桁ごとにカンマ ( , ) で区切られている数も取り込むことができます。
メール	Excel形式 CSV形式 共通	アットマーク ( @ ) で区切られた、メールアドレスとして適切な文字列 ※複数のメールアドレスを入力できるように設定した場合は、メールアドレスごとにカンマ ( , ) で区切ります。
URL	Excel形式	セル内改行を利用して、URLとラベルの間に改行した文字列 [例] http://justsystems.com<改行>JUSTSYSTEM
	CSV形式	URLとラベルの間に改行を挟み、全体を半角のダブルクォーテーション ( " ) で囲んだ文字列 [例] "http://justsystems.com<改行>JUSTSYSTEM"
ドロップダウン	Excel形式	選択肢項目の文字列
	CSV形式	選択肢項目の文字列
チェックボックス	Excel形式 CSV形式 共通	true または false ※値が設定されていない場合は、false となります。
選択リスト	Excel形式	セル内改行を利用して、選択肢の項目ごとに改行した文字列
	CSV形式	選択肢の項目ごとに改行を挟み、全体を半角のダブルクォーテーション ( " ) で囲んだ文字列 [例] "東京都<改行>埼玉県<改行>神奈川県"

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法2：表計算ファイルから作成する

UnitBaseのフィールドの種類	ファイル内のデータの書式	
日付時刻	Excel形式	<p>Excelに組み込まれている表示形式のうち、半角文字で、次の形式で記述された日付や時刻</p> <p>[日付]            YYYY/MM/DD            MM/DD/YY            DD-MMM-YY            DD/MM/YYYY            DD MMMM YYYY            平成YY年MM月DD日            HYY.MM.DD            *YYYY/MM/DD            *YYYY年MM月DD日</p> <p>[時刻]            hh:mm:ss            hh:mm            hh:mm:ss AM (or PM)            hh:mm AM (or PM)</p> <p>[日付時刻]            YYYY/MM/DD hh:mm            YYYY/MM/DD hh:mm AM ( or PM)</p> <p>※日付を表す「MM」「DD」や、時刻を表す「hh」「mm」「ss」は、1桁で表現することもできます。            ※表示形式の分類が[ユーザー定義]になっているものは、正しく取り込めない場合があります。</p>
	CSV形式	<p>半角文字で、次の形式で記述された日付や時刻</p> <p>[日付]            YYYY/MM/DD            YY/MM/DD</p> <p>[時刻]            hh:mm:ss</p> <p>[日付時刻]            YYYY/MM/DD&lt;半角スペース&gt;hh:mm:ss</p> <p>※日付を表す「MM」「DD」や、時刻を表す「hh」「mm」「ss」は、1桁で表現することもできます。            ※日付の「YY/MM/DD」形式の場合、「YY」は次のように解釈して取り込まれます。            70~99：1970~1999            00~69：2000~2069            ※時刻・日付時刻の「:ss」は省略できます。</p>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 2 : 表計算ファイルから作成する

UnitBaseのフィールドの種類	ファイル内のデータの書式		
時間量	Excel形式 CSV形式 共通	半角文字で、次の形式で記述された日時分秒 日時分秒 : d-hh:mm:ss 日時分 : d-hh:mm 日時 : d-hh 時分秒 : hh:mm:ss 時分 : hh:mm 日 : d 時 : h 分 : m 秒 : s ※「d」「hh」「mm」「ss」は桁数は自由です。 また、先頭に半角のマイナス (-) を付けることで、負数を表現できます。	
		<b>例</b>	<b>意味</b>
		1-2:3:4	1日間 2時間 3分 4秒
		10-0-660:720	10日間 11時間 12分 0秒
		-10-02:03:04	-10日間 2時間 3分 4秒
自動採番	Excel形式 CSV形式 共通	フィールドの詳細設定で定義した書式（表示桁数・接頭文字/接尾文字）に従って記述された文字列 ※値がない場合は、自動で採番されます。 ※値が重複すると、エラーになります。 [例] a0001z、a0002z、a0003z、・・・、a9999zという連番データを取り込む場合	
		<b>項目</b>	<b>設定値</b>
		表示桁数	4
		接頭文字	a
		接尾文字	z
ユーザー	ログインIDの文字列 ※ユーザー名の文字列は指定できません。		

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 2 : 表計算ファイルから作成する

明細内のフィールドに取り込みたいデータがある行は、標準では、取り込みたいデータ以外の部分は空白にしておきます。

※新規データベース作成で明細にデータを取り込む場合はフィールドの詳細設定で [明細として設定] を [する] に設定しておく必要があります。

#### 取り込み元の表計算ファイル

[例] 各都道府県の市区町村・人口・世帯数を明細内フィールドとして取り込む

	A	B	C	D	E
1	No.	県名	市区町村	人口	世帯数
2	1	徳島県	徳島市	261,359	106,932
3			鳴門市	64,537	24,589
4			小松島市	42,916	16,247
5	2	東京都	千代田区	42,015	21,407
6			中央区	90,190	48,834
7			新宿区	270,989	154,740
8	3	北海道	札幌市	1,856,442	889,114
9			函館市	296,547	138,774
10			小樽市	143,900	67,580

明細内フィールドのフィールド名候補

No.1の明細内レコード

No.2の明細内レコード

No.3の明細内レコード

#### 取り込み実行後のデータベース

No.	県名	明細 (市区町村/人口/世帯数)
1	徳島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>市区町村</li> <li>人口</li> <li>世帯数</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>徳島市 261359 106932</li> <li>鳴門市 64537 24589</li> <li>小松島市 42916 16247</li> </ul>
2	東京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>市区町村</li> <li>人口</li> <li>世帯数</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>千代田区 42015 21407</li> <li>中央区 90190 48834</li> <li>新宿区 270989 154740</li> </ul>
3	北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>市区町村</li> <li>人口</li> <li>世帯数</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌市 1856442 889114</li> <li>函館市 296547 138774</li> <li>小樽市 143900 67580</li> </ul>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 2 : 表計算ファイルから作成する

明細フィールドの取込・出力に使用する表計算ファイルの書式として、デフォルトでは明細フィールド以外のフィールドは1行目のみ値を埋める形式となりますが、すべて値を埋めた形式を利用することもかこのうです。

非明細フィールドは1行目のみ値を埋める形式

<非明細>		<明細>		
A	B	C	D	E
1	No. 県名	市区町村	人口	世帯数
2	1 徳島県	徳島市	261,359	106,932
3		鳴門市	64,537	24,589
4		小松島市	42,916	16,247
5	2 東京都	千代田区	42,015	21,407
6		中央区	90,190	48,834
7		新宿区	270,989	154,740
8	3 北海道	札幌市	1,856,442	889,114
9		函館市	296,547	138,774
10		小樽市	143,900	67,580

No.1の明細内レコード

No.2の明細内レコード

No.3の明細内レコード

非明細フィールドにもすべて値を埋めた形式

<非明細>		<明細>		
A	B	C	D	E
1	No. 県名	市区町村	人口	世帯数
2	1 徳島県	徳島市	261,359	106,932
3	1 徳島県	鳴門市	64,537	24,589
4	1 徳島県	小松島市	42,916	16,247
5	2 東京都	千代田区	42,015	21,407
6	2 東京都	中央区	90,190	48,834
7	2 東京都	新宿区	270,989	154,740
8	3 北海道	札幌市	1,856,442	889,114
9	3 北海道	函館市	296,547	138,774
10	3 北海道	小樽市	143,900	67,580

No.1の明細内レコード

No.2の明細内レコード

No.3の明細内レコード

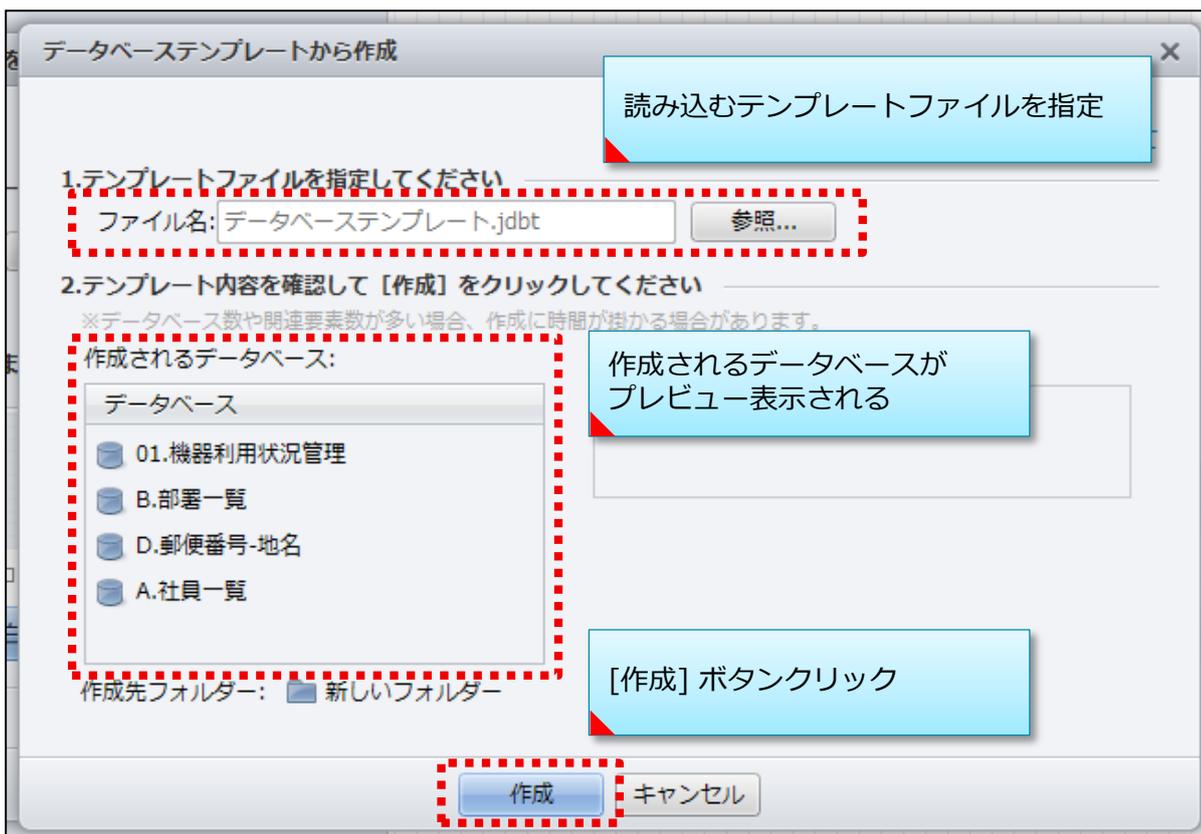
すべての値を埋めた形式を利用するには、管理者によるサーバー設定が必要です。詳細は管理者ガイド「CSV ファイルインポート時の明細行形式」と「CSV ファイルエクスポート時の明細行形式」をご確認ください。

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法3：テンプレートから作成する

データベーステンプレートファイルを利用して新しいデータベースを作成します。データベーステンプレートを利用すると、ルックアップやデータベースリンクなどの依存関係を維持したまま、複数のデータベースを一気に作成できます。



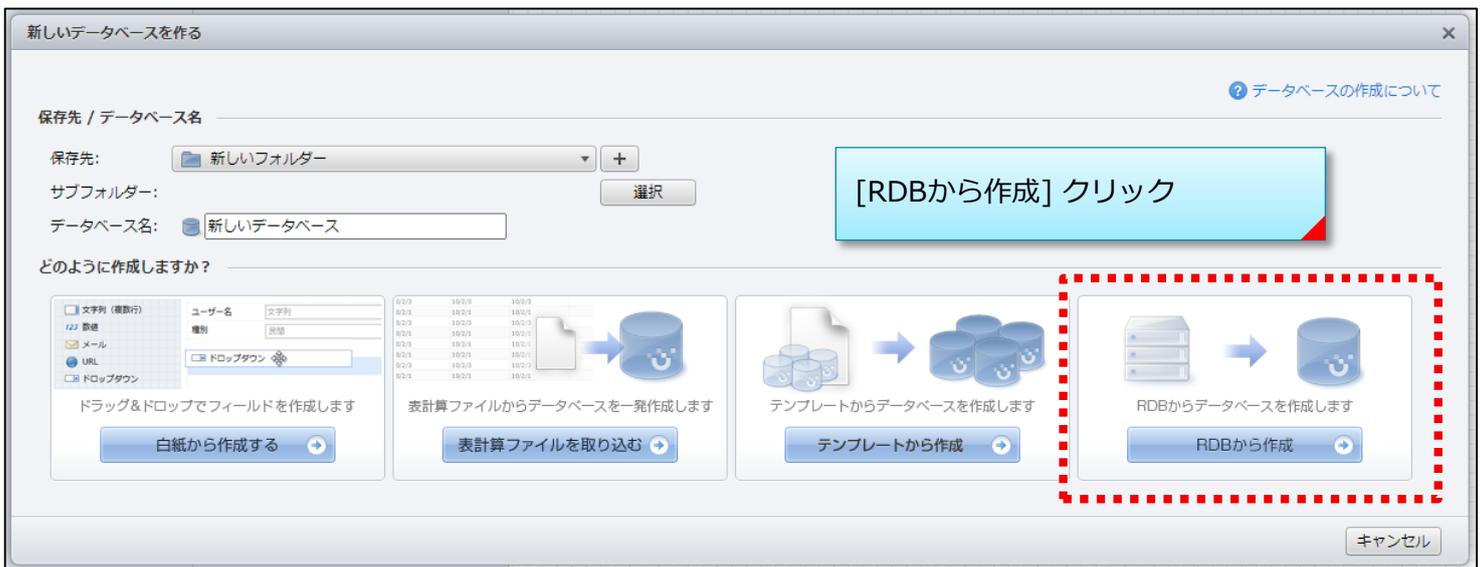
# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法4 : RDBから作成する

#### ★Enterprise版のみの機能です

RDBのテーブル/ビューを元にして、RDBのカラムに対応したUnitBaseのフィールドを持つデータベースを作成できます。



# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 4 : RDBから作成する

#### ★Enterprise版のみの機能です

RDBのテーブル／ビューのカラムごとに列が表示され、RDBのレコードが20件分までプレビュー表示されます。  
 ここから各カラムの取り込み先フィールドの種類や名前を設定し、データベースを作成します。

RDBの取り込み設定 ? RDBの取り込み設定について

列番号	1	2	3	4
カラム名(型)	status(文字列型)	matter_name(文字列型)	client_pic_name(文字...	client(文字列型)
フィールドの種類	文字列 (1行)	文字列 (1行)	文字列 (1行)	文字列 (1行)
フィールド名	顧客コード	顧客会社名	会社名フリガナ	顧客部署名
1行目	C00001	製造A社	セイソウエーシャ	品質管理部
2行目	C00002	金融B社	キンユウビーシャ	サービス企画部
3行目	C00003	食品C社	ショクヒンシーシャ	生産管理部
4行目	C00004	保険D社	ホケンディーシャ	営業1課
5行目	C00005	保険E社	ホケンイーシャ	営業3課
6行目	C00006	サービスF社	サービスエフシャ	販売促進部
7行目	C00007	通信G社	ツウシンジーシャ	開発部
8行目	C00008	開発H社	カイハツエイチシャ	システム開発部
9行目	C00009	教育I社	キョウイクアイシャ	企画担当
10行目	C00010	通信J社	ツウシンジェイシャ	総務部
11行目	C00011	金融K社	キンユウケーシャ	総務部
12行目	C00012	電機L社	デンキエルシャ	技術管理部
13行目	C00013	医療M社	イリョウエムシャ	電算室
14行目	C00014	出版N社	シュツパンエヌシャ	校閲部

新しい選択肢を自動追加する

レイアウトのフォーム列数:  2列  4列

※RDBからデータを取り込むフィールドは、UnitBase上でのデータ編集が不可となります。  
 ※キーフィールドは差分更新で使用するフィールドで、外部のレコードとUnitBaseのレコードを一対一に対応づけます。

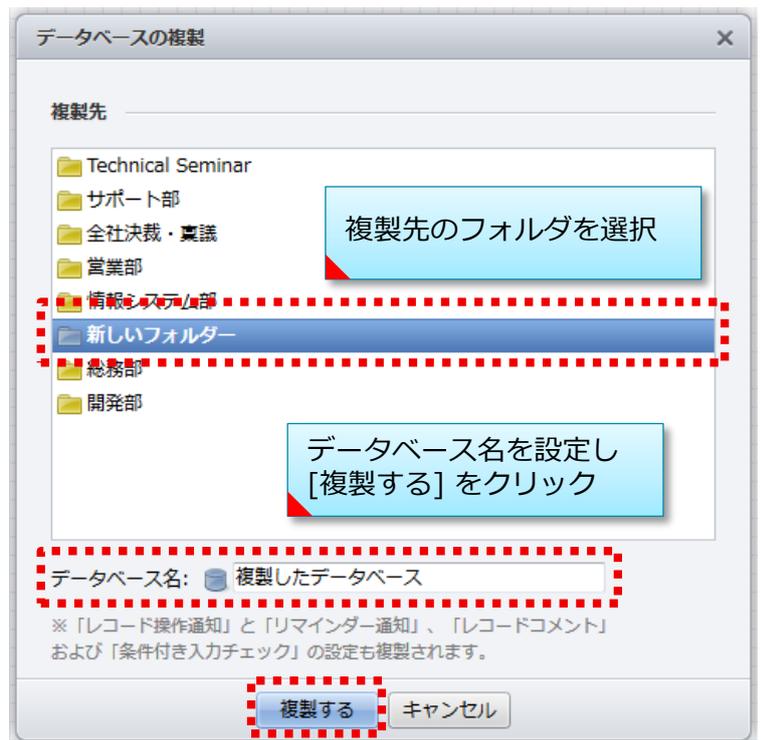
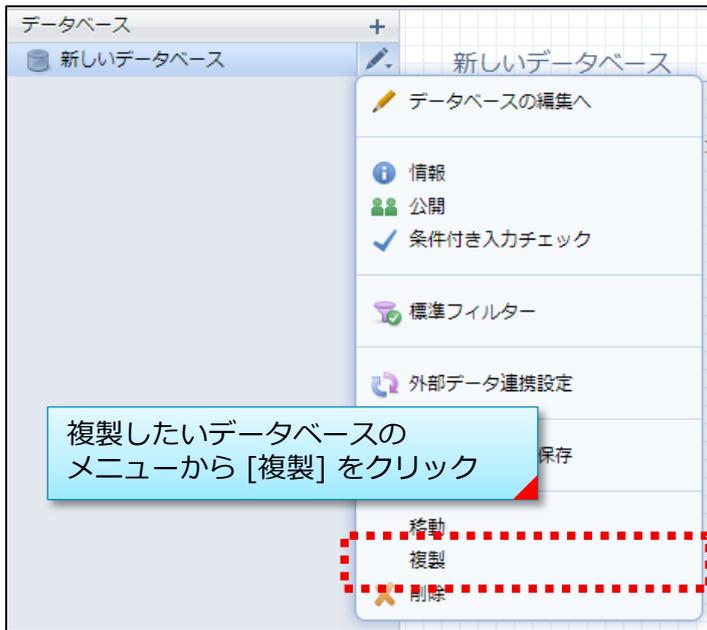
>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 作成方法 5 : 既存のデータベースを利用して作成する

作成済みのデータベースとよく似た内容で別のデータベースを作成するときは、データベースを複製して利用できます。



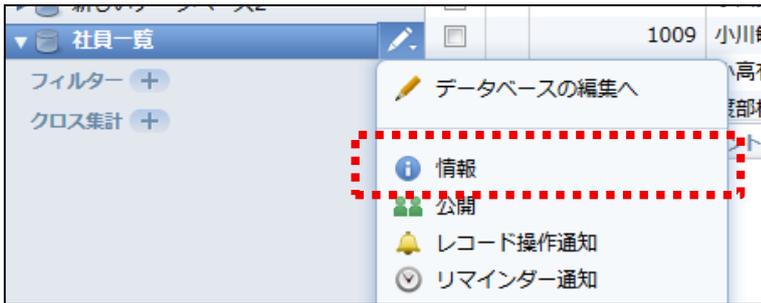
- ✓ 複製元のデータベースのレコードは複製されません
- ✓ 複製して作成されるデータベースには、複製元のデータベースに設定されているアクセス権は引き継がれません
- ✓ 決裁データベースを複製して作成されるデータベースは、決裁情報がすべて削除された通常のデータベースとなります
- ✓ データベースを複製できるのは、対象のデータベースの所有者・フォルダーの所有者・管理者です。複製先のフォルダーに対するデータベース作成権も必要です。

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

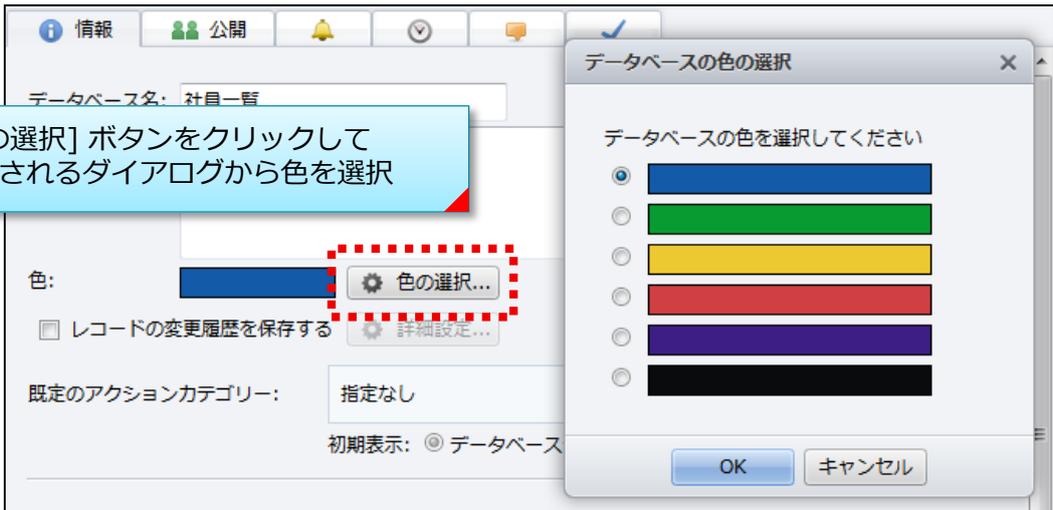
### □ テーマカラーを設定する

作成したデータベースに表示色を設定し、現在どのデータベースにアクセスしているかを視覚的に分かりやすくすることができます。



データベースのメニューから [情報] をクリック

[色の選択] ボタンをクリックして表示されるダイアログから色を選択



社員ID	氏名	入社年月日	部署名	内線番号
1001	岡田哲平	1985年04月01日	法人事業部 東日本	#5000
1002	二宮将太	1990年04月01日	法人事業部 西日本	#5002
1003	井上悠	2002年04月01日	通信ネットワーク	#5004
1004	中岡麻由子	2000年11月09日	法人事業部 西日本	#2511
1005	横山真緒	2006年04月01日	通信ネットワーク	#5351

社員ID	1002
氏名	二宮将太
入社年月日	1990年04月01日(日曜日)
部署名	法人事業部 西日本営業課
内線番号	#5002
メールアドレス	ninomiya@example.co.jp

データベースの配色が変わる

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 利用できるフィールドの一覧

フィールドには次の3つのグループがあり、入力内容や方法によって使い分けます。

- 基本

文字列や数値など、ユーザーが値を直接入力するフィールド

- 自動入力

ほかのフィールドの値を参照したり、計算したりするなどして、UnitBaseが自動的に値を表示・設定するフィールド

- ユーティリティ

フィールドを明細の項目として扱ったり、フィールドをグループ化して表示したりするための項目

### □ 基本グループ (1)

種類	説明／主な制限値
<input type="checkbox"/> 文字列 (1行)	1行分の文字列を入力する領域。 [詳細設定] で初期値として表示する文字列、入力できる最大文字数などを設定可能。 ..... 最大32,767文字まで。
<input type="checkbox"/> 文字列 (複数行)	複数行にわたる文字列を入力する領域。 [詳細設定] で初期値などのほか、入力欄の行数を設定可能。 ..... 最大32,767文字まで。

✓  文字列の [詳細設定] では、特定の文字種だけ入力を許可する、または特定の文字種は入力できないようにする、という設定ができます。例えば商品コードを入力する欄では「半角の英字大文字と数字のみ入力可」として、意図しない文字列が登録されるのを防ぐことができます。

次の文字だけ入力を  許可する ▼

半角  すべての半角文字 (記号も含む)

種別判定  英字大文字  英字小文字  数字  カタカナ

全角  すべての全角文字 (漢字、記号も含む)

種別判定  英字大文字  英字小文字  数字  カタカナ  ひらがな

任意の文字・記号を設定

既に登録されたレコードのチェックは行いません。

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 基本グループ (2)

種類	説明／主な制限値
 数値	<p>数値を入力する領域。 [詳細設定] では初期値・最小値・最大値の設定のほか、自動的に単位を付けることや、%表示にすることも可能。</p> <p>数値フィールドに入力できるのは、整数部と小数部を合わせて15桁以内。</p>
 メール	<p>メールアドレスを入力する領域。 入力されたメールアドレスにはリンクが設定され、リンクのクリックでメールソフトが起動する。</p> <p>複数のメールアドレスを入力できるように設定することも可能。 その場合はメールアドレスを100件まで入力できる。</p>
 URL	<p>WebページのURLと、リンクのラベルを入力する領域。 設定したURLにはハイパーリンクが設定され、リンクのクリックでそのWebページに直接アクセス可能。</p> <p>URLは最大2,000文字、リンクのラベルは最大100文字。</p>
 ドロップダウン	<p>設定する項目を、クリックして表示される一覧（ドロップダウンリスト）から選択して入力する領域。表示形式をラジオボタンに変更することも可能。 選択肢の一覧からは1項目だけ選択できる。</p> <p>選択肢の個数は最大100項目。 選択肢の項目名は、文字列の場合は50文字まで、数値の場合は整数では10桁以内、小数では実数部10桁・小数部5桁以内。</p>
 選択リスト	<p>設定する項目を、一覧から選択して入力する領域。表示形式をチェックボックスに変更することも可能。 選択肢の一覧から複数の項目を選択することができる。</p> <p>選択肢の個数は最大100項目。 選択肢の項目名は、文字列の場合は50文字まで、数値の場合は整数では10桁以内、小数では実数部10桁・小数部5桁以内。</p>
 チェックボックス	<p>二者択一の項目を設定する領域。 初期値としてオン( <input checked="" type="checkbox"/> )とオフ( <input type="checkbox"/> )のどちらかを設定可能。</p>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 基本グループ (3)

種類	説明／主な制限値
 日付時刻	<p>日付や時刻を入力する領域。 日付のみ、時刻のみ、日付時刻の両方、の中から表示形式を選択でき、それぞれの書式も設定可能。 初期値として現在日時をあらかじめ設定することも可能。 表示形式に和暦を使用することもできる。</p>
 時間量	<p>時間を量として入力する領域。 例えば「通勤時間：1時間10分」や「出張日数：2日」などを示す場合に利用する。 時間量の表示形式は日・時・分・秒の組み合わせで設定することが可能。</p> <hr/> <p>時間量として設定できるのは5,000年以内。</p>
 ファイル	<p>任意のファイルへのリンクを設定する領域。 ファイル名にはハイパーリンクが設定され、サーバーへアップロードしたファイルをダウンロードして開くことが可能。</p> <hr/> <p>アップロードファイルのファイル名は255文字以内、ファイルサイズは20MBまで（※拡張可能、後述）。</p>
 画像	<p>画像を表示する領域。 レコード一覧やビューアーにサーバーへアップロードした画像ファイルを表示可能。ビューアー画面では画像のサムネイルをクリックして原寸大で表示を確認可能。</p> <hr/> <p>アップロードファイルのファイル名は255文字以内、ファイルサイズは20MBまで。 対応画像ファイルはJPEG、GIF、PNG、BMPの各形式。 帳票にはJPEGまたはPNG形式の画像を出力可能。</p>
 ユーザー	<p>UnitBaseに登録されたユーザーを設定する領域。 UnitBaseにユーザーとして登録されていれば、ユーザーをデータとして利用可能。 例えばサポート窓口の問い合わせ管理用データベースで、「担当者」としてUnitBaseに登録されているユーザーから任意のユーザーを選択できる。</p>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 自動入力グループ (1)

種類	説明／主な制限値
 数値計算	<p>フィールドの値や指定した数値を計算・集計する領域。 四則演算（足し算・引き算・掛け算・割り算）と、簡単な集計（合計・最大・最小・平均）ができる。 単位・桁区切りの表示や、小数点以下の桁数、端数の切り上げや切り捨てなどの処理も設定可能。</p> <p>計算の対象となるフィールドは [既存のフィールド] シートで数値計算フィールドよりも上にある数値フィールド、入力値の種類が数値のドロップダウンフィールド、数値計算フィールド。明細内に配置されている数値・ドロップダウン・数値計算フィールドは、明細の外にある数値計算フィールドの集計対象にはできるが、四則演算の対象にはならない。</p>
 日時計算	<p>日付時刻や時間量などを、計算・集計する領域。 足し算・引き算と、簡単な集計（合計・最大・最小・平均）ができる。 計算結果が時間量になる場合の表示形式を設定することも可能。</p> <p>計算の対象となるフィールドは [既存のフィールド] シートで日時計算フィールドよりも上にある時間量フィールド・日付時刻フィールド・日時計算フィールド。 計算方法・計算対象（フィールド・定数）を、あとで変更することはできない。</p>
 年齢計算	<p>基準日となる日付時刻フィールドを指定し、現在までの経過年数を計算する領域。 経過年数は年・年月・月・日のいずれかの形式で表示。 表示形式や桁区切りの表示、端数の処理などを設定可能。</p> <p>明細内に配置された日付時刻フィールドやロックアップフィールドは、明細の外にある年齢計算フィールドの計算対象にはならない。</p>
 自動採番	<p>指定した開始番号・桁数で、連番を振る領域。 番号に任意の接頭文字／接尾文字を付けることが可能。 接頭文字／接尾文字には年月日の文字列を組み込める。 既存のレコードに連番を振ることもできる。 採番のタイミングや番号をリセットするタイミングも設定可能。</p> <p>採番できる数値は10桁まで。 既に採番済みのレコードがある場合、開始番号・桁数・接頭文字／接尾文字をあとで変更することはできない。</p>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ 自動入力グループ (2)

種類	説明／主な制限値
 ルックアップキー	<p>ほかのデータベースのフィールドと関連づけて、値を参照する手がかり（キー）となる領域。 参照先として関連付けるフォルダー・データベース・レイアウト・フィールドを設定する。 ほかのデータベースから参照する値の更新を自動・手動のどちらで行うか設定可能。</p> <hr/> <p>ルックアップキーの参照先に指定できるフィールドは [文字列 (1行)]・[数値]・[自動採番]・[メール]・[ユーザー] のみ。</p>
 ルックアップ	<p>関連付けたルックアップキーを元に、ルックアップキーと同じデータベースにあるほかのフィールドを参照する領域。 参照して取り込んだ値を編集できるように設定することも可能。 [ルックアップ] には関連付けるルックアップキーを設定。</p> <hr/> <p>以下のフィールドはルックアップ先には指定できない。 [ファイル]・[画像]・[年齢計算]・[データベースリンク]・[リレーションパネル]・[見出し]・[明細]</p>
 データベースリンク	<p>指定したフィールドに入力されている値をキーワードとして、ほかのデータベースを検索するためのリンクを設定する領域。 検索に利用するフィールドと、検索先になるデータベースを設定する。 データベースリンクをクリックすると、指定したデータベースで完全一致した検索結果が別ウィンドウに表示される。</p> <hr/> <p>検索キーワードとして指定できるフィールドは以下のいずれか。 [文字列 (1行)]・[文字列 (複数行)]・[数値]・[メール]・[URL]・[ドロップダウン]・[数値計算]・[自動採番]・[ユーザー]</p> <p>明細の外にあるデータベースリンクで明細内の項目をキーワードフィールドに設定した場合、明細の先頭行の値が検索に使用される。</p>

# データベース作成の基本

## 3. データベースを作成する

### □ ユーティリティグループ

種類	説明／主な制限値
 明細	<p>1つのレコードの中に複数の項目（フィールド）を配置できる領域。 明細領域の中に、内容を構成するフィールドを配置し、1つのグループとして扱う。</p> <hr/> <p>1つのデータベースに配置できる明細は1つ。 明細内に配置できるフィールドは最大8つ、明細に含まれるレコード数は最大60レコードまで（※システム設定により変更可能）。 明細内には [自動採番]・[見出し]・[明細] の各フィールドは配置できない。</p>
 見出し	<p>フィールドの項目をグループ化して表示するために、見出し文字や説明を入れる領域。 ビューアー画面、レコード編集ダイアログで利用可能。 説明文はリッチテキストを利用して文字の強調表示や背景の色づけなどが可能。</p>
 リレーションパネル	<p>ビューアー画面やレコード編集ダイアログ内に、別のデータベースのレコードを一覧形式で表示するための領域。 参照するデータベース・レイアウトと、表示するレコードの検索条件を設定する。</p> <hr/> <p>1つのフォームレイアウトに配置できるリレーションパネルは5つまで。 リレーションパネルへのファイルからのデータ取り込みや、CSVファイルへのデータ出力はできない。 一覧形式で表示されるのは、設定したレイアウトの一覧レイアウトのうち、明細を除く左から設定項目の表示フィールド数で指定した個数分のフィールド。</p>

各フィールドの詳細な説明は、ヘルプの「10. 付録」>「利用できるフィールドの一覧」を参照してください。

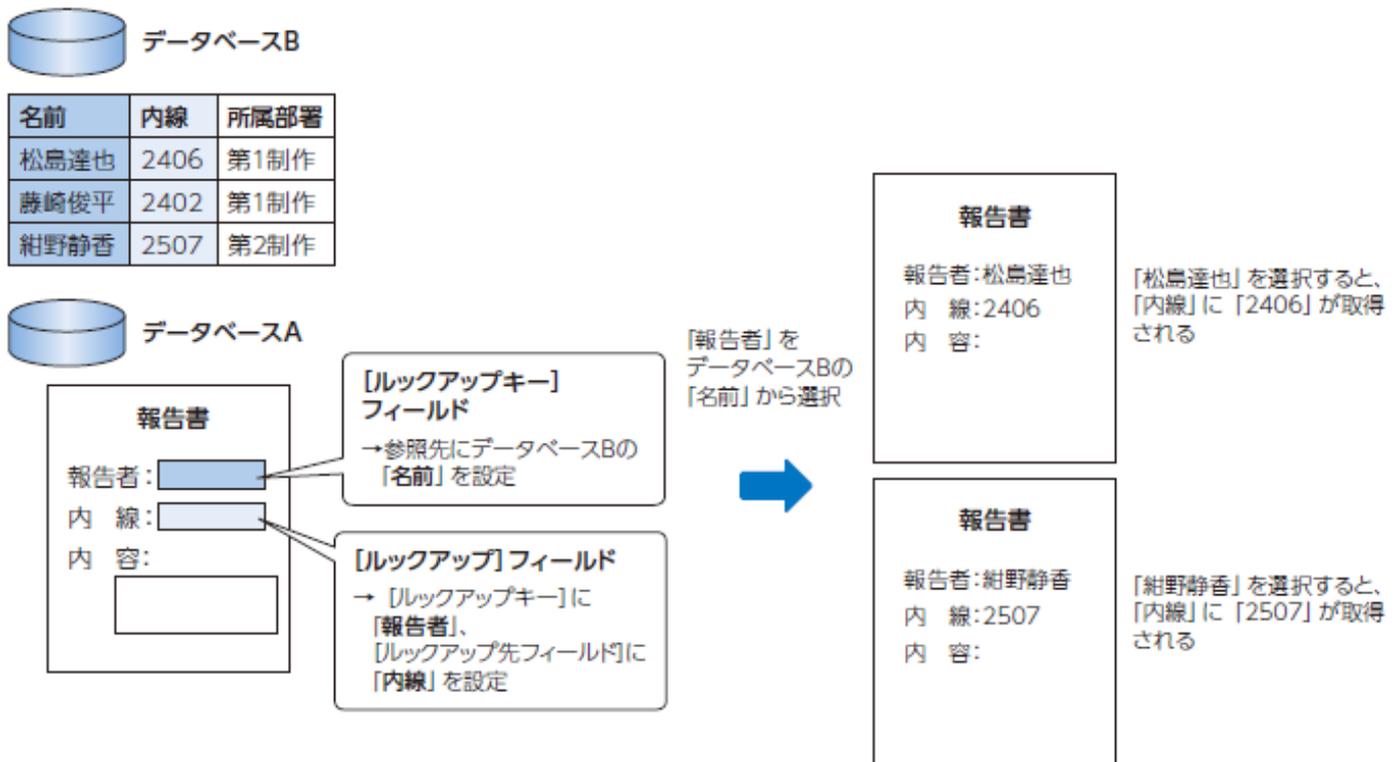
# データベース作成の基本

## □ 補足①：ルックアップキーフィールド・ルックアップフィールド

[ルックアップキー] と [ルックアップ] は、ほかのデータベースのデータをそのまま参照して利用できる便利なフィールドです。

[ルックアップキー] を設定したレコードの値は、[ルックアップキー] の参照先として設定したデータベースのレコード一覧から、値を選択して設定できます。

[ルックアップ] を設定したレコードがある場合は、[ルックアップキー] の値を選択すると、その値と連動してルックアップの値が更新されます。



# データベース作成の基本

## □ 補足①：ルックアップキーフィールド・ルックアップフィールド

ルックアップキーとルックアップを組み合わせて使うことで、他のデータベースの値を参照して表示させることができます。

ここでは例として、UnitBase に付属するサンプルの「サポート部」フォルダー > 「1.問い合わせ管理」データベースでの使用例を見てみます。

顧客情報や社員情報のように様々なデータベースで使用する可能性がある情報は、データベースごとに個別に入力するのではなく、1つのデータベースにまとめておき、使い回した方が情報の管理が容易になります。

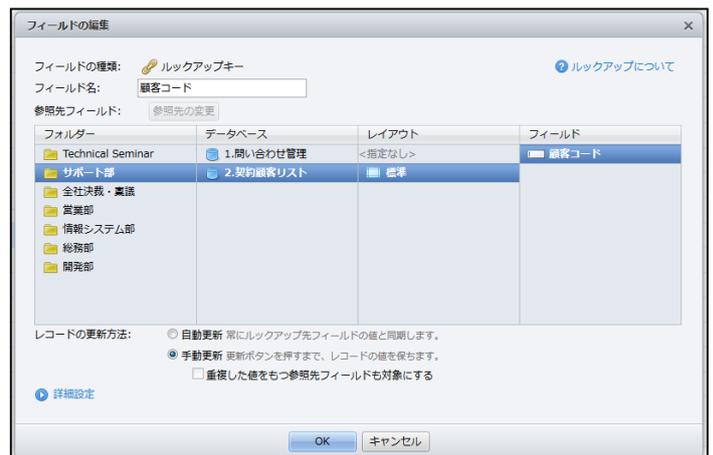
このサンプルでは、同じ「サポート部」フォルダーの「2.契約顧客リスト」データベースで顧客情報が一元管理されています（下図）。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	顧客コード	顧客会社名	会社名フリガナ	電話番号	顧客部署名	契約状況	従業員数	業種
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C00001	製造A社	セイソウエーシャ	111-111-1111	品質管理部	契約中	350	製造
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C00002	金融B社	キンキュウビーシャ	111-111-1111	サービス企画部	契約終了	200	金融
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C00003	食品C社	ショクヒンシーシャ	111-111-1111	生産管理部	契約中	1,000	食品
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C00004	保険D社	ホケンディーシャ	111-111-1111	営業1課	契約中	150	保険
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C00005	保険E社	ホケンイーシャ	111-111-1111	営業3課	契約中	700	保険

こうしたデータを別のデータベースから参照・引用できるのがルックアップキー・ルックアップです。

「1.問い合わせ管理」データベースでは、「顧客コード」をルックアップキーとして、「顧客会社名」「顧客担当者名」「顧客住所」をルックアップで参照する設定となっています。

右の画面は「顧客コード」ルックアップキーの設定です。  
参照先として「2.契約顧客リスト」データベースの「顧客コード」フィールドを指定しています。



自動更新では重複する値を持たないフィールドをルックアップキーとして指定する必要があります。  
手動更新では重複した値を持つフィールドもルックアップキーとして指定できます。

右の画面は「顧客会社名」ルックアップの設定です。  
「顧客コード」ルックアップキーを元にして「2.契約顧客リスト」データベースから「顧客会社名」フィールドを参照しています。



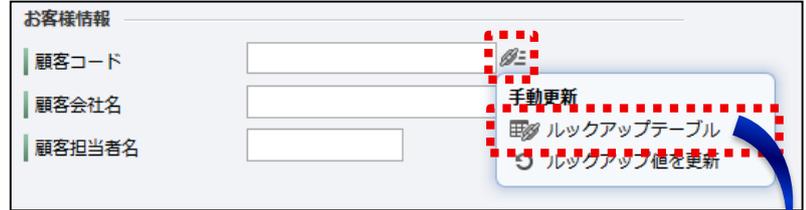
「顧客担当者名」「顧客住所」も同じようにして「2.契約顧客リスト」データベースから値を参照しています。

# データベース作成の基本

## □ 補足①：ルックアップキーフィールド・ルックアップフィールド

「1.問い合わせ管理」データベースのレコード入力画面は右のようになっています。

「顧客コード」入力欄の右にあるボタンのサブメニューから、[ルックアップテーブル] をクリックします。



右のような「ルックアップレコードの選択」ダイアログが表示されます。

ここにはルックアップ先に指定した「2.契約顧客リスト」データベースのレコードが一覧表示されています。

一覧から参照の対象にするレコードを選択して [OK] ボタンをクリックします。



右のように「顧客コード」をキーにして「顧客会社名」「顧客担当者名」などのデータが取り込まれます。



このままレコードを保存することで、「顧客コード」「顧客会社名」「顧客担当者名」「顧客住所」には「2.契約顧客リスト」データベースから参照した値が保存・表示されます。



このように、ルックアップキー・ルックアップを利用することで、異なるデータベースで管理しているデータを参照して表示することができます。

ルックアップキー・ルックアップの設計の要点については、のちほど別章で改めてご説明します。

# データベース作成の基本

## □ 補足②：データベースリンクフィールド

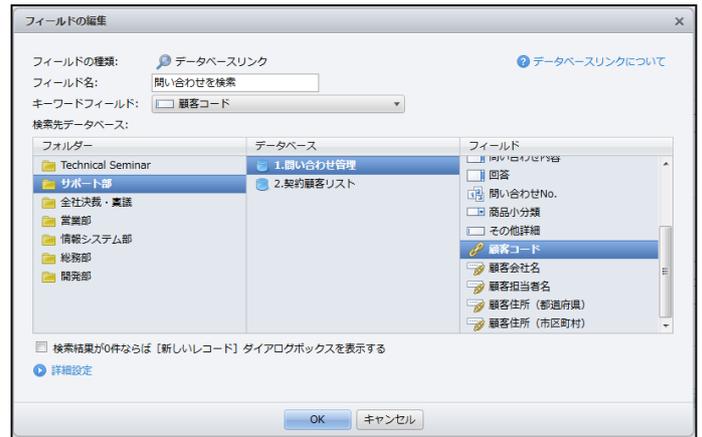
データベースリンクフィールドを使用すると、指定したフィールドに入力されている値を使って別データベースのキーワード検索を行い、結果一覧を表示するためのリンクを作成できます。

ここでは例として、UnitBaseに付属するサンプルの「サポート部」フォルダー > 「2.契約顧客リスト」データベースにデータベースリンクフィールドを追加してみます。

今回は「2.契約顧客リスト」データベースの「顧客コード」フィールドに入力されている値を使って「1.問い合わせ管理」データベースを検索し、一致するレコードに絞り込みます。

[キーワードフィールド] に「顧客コード」フィールドを指定します。

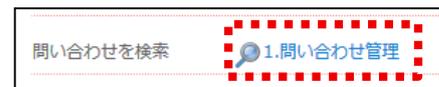
[検索先データベース] には「1.問い合わせ管理」データベースを指定し、検索対象のフィールドに「顧客コード」を指定します。



「2.契約顧客リスト」データベースの参照画面では、右の赤枠のようにレコード一覧やフォーム欄に「1.問い合わせ管理」データベースを検索するリンクが表示されます。



リンクをクリックすると新しいタブやウィンドウが開き、選択しているレコードの「顧客コード」の値を使って「1.問い合わせ管理」データベースの「顧客コード」を検索した絞り込み結果が表示されます。



実際にリンクをクリックすると、「1.問い合わせ管理」データベースへの検索が行われ、下のようにレコードが絞り込まれた一覧が表示されます。

データベース	1. 問い合わせ管理	問い合わせ	受付日付	回答期限	担当者	ステータス	顧客会社名	問い合わせ分	タイトル
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Q00001	2016/09/30	2016/10/03	井上悠	対応済み	製造A社	不具合	パソコンが起動しない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Q00007	2016/10/04	2016/10/11	井上悠	対応中	製造A社	クレーム	液晶にドット抜けがある

このように、指定したフィールドに入力されている値を元に、別のデータベースを検索した結果一覧を開くことができます。

# データベース作成の基本

## □ 補足③：リレーションパネル

リレーションパネルを使うことで、レコードのビューア画面や編集ダイアログ内に、別データベースのレコード一覧を埋め込んで表示できます。

これにより、わざわざデータベースを開き直すことなく、簡単に別データベースのレコードを参照できるようになります。

すべてのレコードを表示することもできますし、絞り込み条件を指定して特定の条件に当てはまるレコードのみを表示することもできます。

リレーションパネルの設定では、参照先のデータベース・レイアウトと、表示するレコードの絞り込み条件を指定します。

ここでは例として、UnitBaseに付属するサンプルの「サポート部」フォルダー > 「2.契約顧客リスト」データベースを見てみます。

この例では「1.問い合わせ管理」データベースのレコードを参照するよう設定しています（上図）。「1.問い合わせ管理」データベースの「顧客コード」の値が、自データベースの「顧客コード」の値と一致しているものを一覧に表示する、という絞り込み条件を付けています。

これによって、下のように、選択したレコードの「顧客コード」に一致するレコードを「1.問い合わせ管理」データベースから参照し、一覧として埋め込み表示できるようになります。

このお客様からの問い合わせ									
問い合わせ	受付日付	回答期限	担当者	ステータス	顧客会社名	問い合わせ	タイトル	商品大分類	商品小分類
Q00001	2016/09/30	2016/10/03	井上悠	対応済み	製造A社	不具合	パソコンが起動しない	デスクトップパソコン	デスクトップパソコン
Q00007	2016/10/04	2016/10/11	井上悠	対応中	製造A社	クレーム	液晶にドット抜けがある	液晶ディスプレイ	ディスプレイA

「他のデータベースのレコードから関連するものに絞り込んで参考に表示する」という点では、前項のデータベースリンクと本項のリレーションパネルは同じような目的のフィールドです。以下のように、用途に応じて使い分けます。

データベースリンクは関連レコードに絞り込んだ通常のデータベース参照画面を新規タブ／ウィンドウで開くため、そこからデータベース操作で内容の確認や編集などをシームレスに行えるのが特徴です。一方のリレーションパネルは現在参照しているレコードに関連するレコードを同じビューア／編集画面内で一目で参照できる点が特徴です。

# データベース作成の基本

## □ 補足④：明細フィールド

明細フィールドには、1つのレコードの中に複数の項目（フィールド）を配置できます。複数項目（フィールド）を1行のひとつのグループとして、複数行のデータを持たせることができます。

例えば、商談の案件管理を行うデータベースで、見積を行った商品を一覧で並べるようなデータを作成できます。

ここでは例として UnitBase に付属するサンプルの「営業部」フォルダー > 「3.見積作成・管理」データベースを見てみます。

見積明細							
商品コード	商品名	標準単価	提示単価	数量	金額(標準価格)	金額(提示)	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	(参照先の値)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	(自動で計算)	(自動で計算)	+ -

このデータベースでは、上のように「見積明細」という明細フィールドの中に、「商品コード」から「金額(提示)」までの7個のフィールドを配置しています。

この横1行をひとつかたまりのグループとして、複数行の入力が可能です。

見積明細							
商品コード	商品名	標準単価	提示単価	数量	金額(標準価格)	金額(提示)	
P0001	ノートパソコンA	100,000	90000	10	(自動で計算)	(自動で計算)	+ -
P0007	パソコンラック	15,000	14000	1	(自動で計算)	(自動で計算)	+ -
P0010	外付けハードディスク	20,000	20000	4	(自動で計算)	(自動で計算)	+ -

実際のレコード編集画面は上のようになります。

ここで赤枠の [ + ] ボタンをクリックすることで、新しい入力行を追加することができます。[ - ] ボタンで入力行を削除することもできます。

見積明細							
商品コード	商品名	標準単価	提示単価	数量	金額(標準価格)	金額(提示)	
P0001	ノートパソコンA	100,000	90,000	10	1,000,000	900,000	
P0007	パソコンラック	15,000	14,000	1	15,000	14,000	
P0010	外付けハードディスク	20,000	20,000	4	80,000	80,000	

こうして保存したレコードは上のように表示されます。

見積を行った商品の品目数は商談ごとに異なるケースがありますが、明細フィールドを使うことにより入力行の数を可変にしてデータを管理できるようになります。

# データベース作成の基本

## □ 補足⑤：ファイルフィールド

ファイルフィールドに添付するファイルサイズの上限はデフォルトで20MBですが、ファイルの保存先をローカルドライブやネットワークドライブに設定することで最大2GBまで添付可能になります。

この機能を有効にするには、先に [個人設定・管理] 画面で管理者設定が必要です。

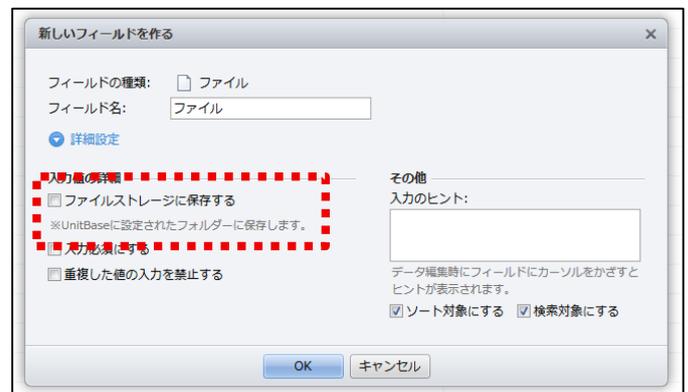


個人設定・管理画面の  
[ファイルフィールド]  
を開く

ファイルフィールドにアップロードされた  
ファイルの保存先フォルダを設定

上記設定を有効にすると、ファイルフィールドの詳細設定に「ファイルストレージに保存する」項目が追加されます。

- ・チェックOFF：従来通りの動作となり、サイズの上限は20MB
- ・チェックON：設定されたフォルダ以下にファイルが保存され、サイズ上限は2GB



- ✓ ファイル保存先フォルダには NETWORK SERVICE アカウントに変更権限を持たせる必要があります
- ✓ 共有フォルダを保存先に指定する場合、共有フォルダに対してUnitBaseサーバーコンピュータのアクセスを許可する必要があります



- ✓ ファイルストレージに保存される添付ファイルはUnitBaseのバックアップの対象に含まれません。指定したフォルダのデータはお客様にて別途コピー等を行いバックアップしておく必要があります。

# データベース作成の基本

## □ 補足⑥：自動採番フィールド

自動採番フィールドに詳細設定に「接頭文字・接尾文字にキーワードを入力する」という項目があります。これを選択することにより、接頭文字・接尾文字に下記の年月日のキーワードを設定できるようになります。

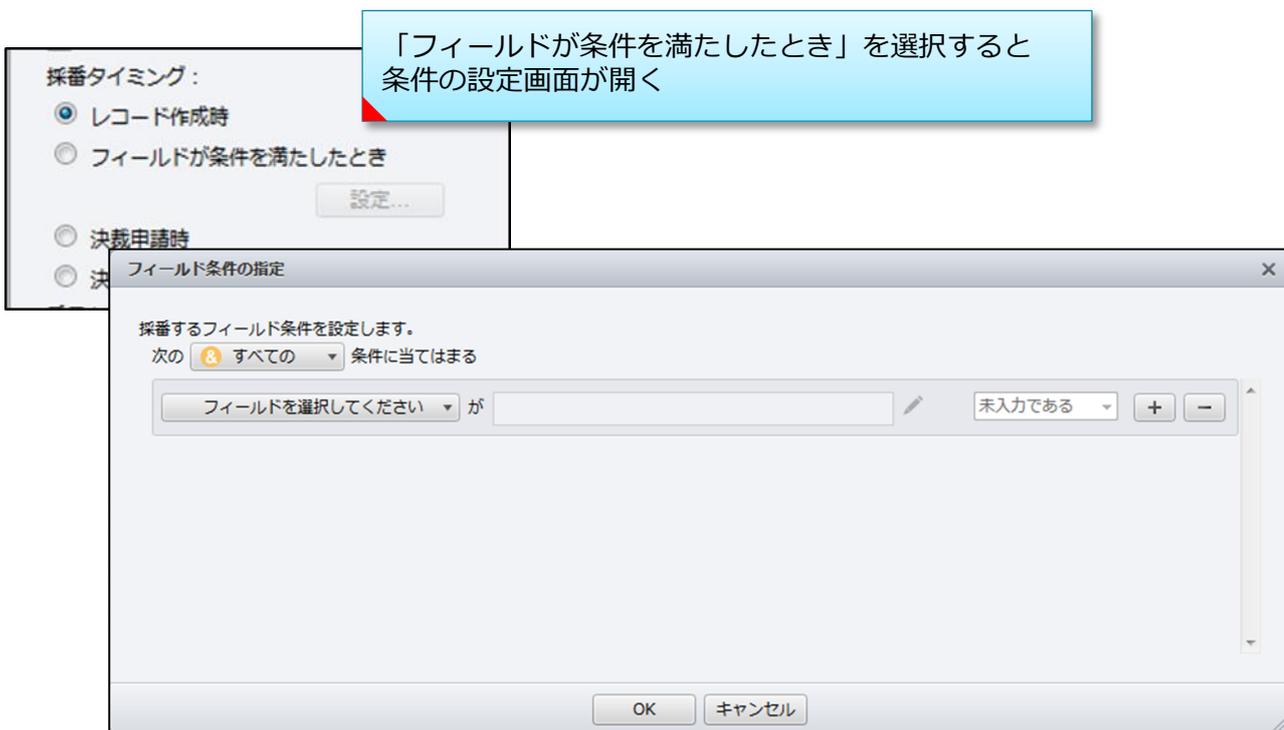
キーワード	変換後の値
%YYYY%	年（西暦4桁、0埋めあり）
%YY%	年（西暦下2桁、0埋めあり）
%MM%	月（0埋めあり）
%M%	月（0埋めなし）
%DD%	日（0埋めあり）
%D%	日（0埋めなし）

# データベース作成の基本

## □ 補足⑥：自動採番フィールド

採番のタイミングもレコード作成時だけでなく下記の4つから選べます。

採番タイミングの選択肢	説明
レコード作成時	新規レコードを補損したタイミングで採番されます。
フィールドが条件を満たしたとき	レコードを保存、新規作成、更新した際に、レコードの値が設定した条件を満たす場合は採番します。 [設定] ボタンをクリックして表れる「フィールド条件の指定」ダイアログで、採番タイミングを指定できるフィールドを選択します。 フィールド条件の指定ダイアログでの設定方法は、[絞込検索] ダイアログボックスで絞り込み条件を設定する場合と同様です。  なお、対象となるフィールドと設定できる条件は下記の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドロップダウン            である・でない・未入力である・未入力でない</li> <li>・ チェックボックス        である・である</li> </ul>
決裁申請時	フィールドを利用しているデータベースが決裁データベースの場合、該当レコードで決裁を開始したタイミングで採番されます。
決裁承認完了時	フィールドを利用しているデータベースが決裁データベースの場合、該当レコードで決裁承認を全て完了したタイミングで採番されます。



# データベース作成の基本

## □ 補足⑥：自動採番フィールド

連番を開始番号の値に戻すタイミングを指定できます。  
年や月が変わるタイミングで連番をリセットするよう設定できます。

番号をリセットするタイミング：

- リセットしない
- 年ごと
- 月ごと

年月日の設定：

また、[年月日の設定] より年月日が切り替わるタイミングを設定できます。

年月日の設定

採番日時  
サーバーのタイムゾーン(+00:00)における日時で採番します。

年月日の境界  
キーワードに置き換える年・月・日の値が変化する境界は、それぞれ以下の通りです。

年の境界： 1 月 1 日 00:00:00

月の境界： 1 日 00:00:00

日の境界： 00:00:00

年月日の値の決定方法

年：採番日時の日・時刻が年の境界以降のとき

- 採番日時の年と同じ値にする
- 採番日時の年の次の値にする

月：採番日時の日・時刻が月の境界以降のとき

- 採番日時の月と同じ値にする
- 採番日時の月の次の値にする

日：採番日時の時刻が日の境界以降のとき

- 採番日時の日と同じ値にする
- 採番日時の日の次の値にする

例) 4月始まりの年度を %YYYY% で利用したい場合の設定

年の境界	4月1日 00:00:00	年の決定方法	採番日時の年と同じ値にする
月の境界	1日 00:00:00	月の決定方法	採番日時の月と同じ値にする
日の境界	00:00:00	日の決定方法	採番日時の日と同じ値にする

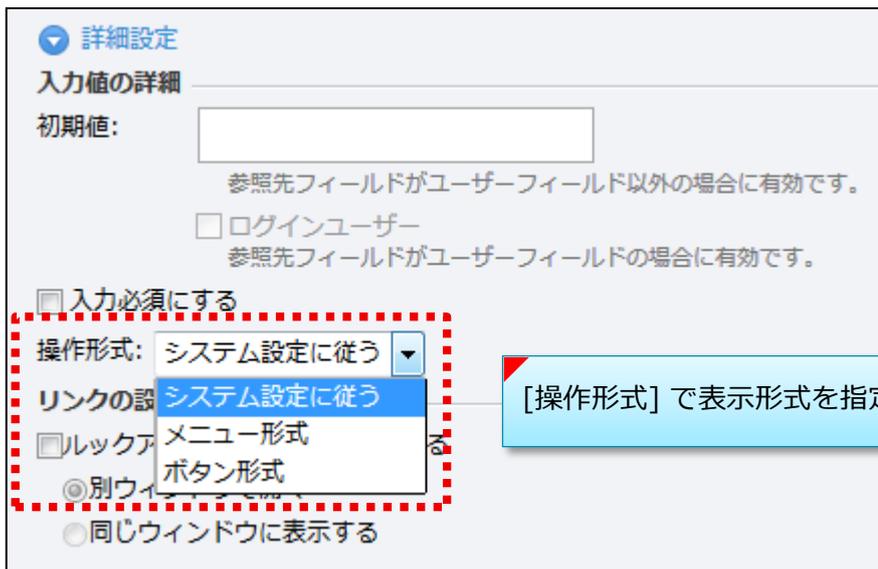
採番日時が 2019/04/01 00:00:00 のとき、%YYYY% ⇒ 2019  
 採番日時が 2019/03/31 23:59:59 のとき、%YYYY% ⇒ 2018

# データベース作成の基本

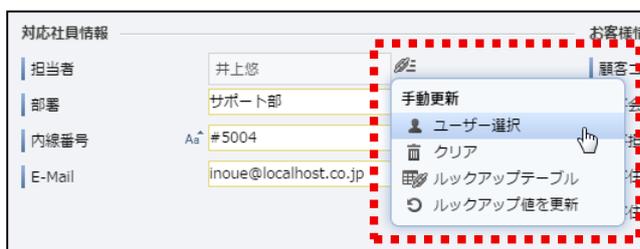
## □ 補足⑦：ルックアップキーフィールド／ユーザーフィールドのボタン表示形式

ルックアップキーフィールドやユーザーフィールドの操作ボタンの表示形式は、UnitBase 5.0 以降で採用されたメニュー表示形式か、UnitBase 4.5 以前のボタン表示形式かを選択して設定することができます。

設定はフィールドの [詳細設定] から行います。



- ・システム設定に従う（デフォルト）  
UnitBaseサーバー上の設定ファイルで指定されている形式に従います。  
初期値は「メニュー形式」です。
- ・メニュー形式  
ボタンにマウスカーソルを乗せると操作メニューを展開して表示します。



- ・ボタン形式  
操作メニューをボタンで並べて表示します。

